

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第1号
2011年4月1日

| 1

連合救援ボランティアレポートを発行します！

昨日（3月31日）、連合救援ボランティアの第1陣が被災地に向け、力強く出発しました。第1陣に参加された方々は、これから長く続くであろう連合救援ボランティアの大きな第一歩を切り開かれ、以降数千人（当初3ヶ月間の延べ日数ベースでは25,000人の派遣を計画）が、支え合う心のバトンを引き継いでいきます。ボランティア活動に参加される方も、職場に残り仕事をカバーする人も、さらには応援してくれる家族や友人知人も含めた大きな人の輪が広がる活動でもあると思います。また、被災地の方々や他の団体や個人のボランティアの方々とも活動を通じてつながっていく、連合が掲げる「つながろうNIPPON」を具現化する活動であると思います。

連合・救援ボランティア班としては、こうしたボランティア参加のみなさんの日々の活動をできる限り、臨場感を持って構成組織、地方連合会のみなさんにお伝えしていきたいと考えます。具体的には

○後に続く参加者との間で活動内容を共有化していくこと

○ボランティア活動を通じた共感の輪を680万人組合員、さらには家族、地域へ広げていくこと…をめざし、情報を提供して参りますのでぜひご覧頂きたいと考えております。

連合救援ボランティア班（非正規労働センター）

第一陣 無事到着 本日より本格始動！

31日午前に東京・連合本部を出発した岩手、宮城、福島各派遣隊第一陣は、それぞれ無事に現地に到着しました。

このうち岩手チームは、17時に中継地点である盛岡駅前広場に到着。その場で連合岩手による受け入れ集会が開催されました。集会では、砂金・連合岩手会長、岩手県社会福祉協議会・菅原課長からのあいさつに続いて、連合本部を代表して生澤総合国際局長、UIゼンセン同盟、自治労、日教組、基幹労連の各代表が決意表明を行いました。集会后、宮古、東和チームに分かれてベースキャンプに向かいました。（右写真：受け入れ集会の模様）

以下は東和ベースキャンプに到着した自治労責任者・佐藤青年部長からの報告です。

「バスは時刻表どおりでした。布団は、ちゃんとした物があり、支給されたのは掛け布団、敷き布団、シーツ、毛布2枚です。暖房が入っているので寝袋はいりません・・・装備品としては、軍手、ゴム手袋、マスク、防塵マスク、ゴーグル、ヘルメット、ホッカイロがあります。生活用品として、タオル、バスタオル、ちり紙、ファブリーズなどあります。長靴以外は、ほとんど必要なかったようです・・・明日は、大槌の泥出し作業です」---対策本部では、こうした現地からの情報をもとに、今後派遣されるみなさんの準備に役立つよう、情報を整理・提供していきたいと思ひます。



■福島チームからも、到着当日のベースキャンプの様子が写真で寄せられています（提供：電機連合）



連合救援ボランティア班からのお知らせ

◆第1陣 初日の作業内容（電話連絡ベース：詳細はあらためて報告します）

- 東和…釜石 : がれき撤去済み地面の消臭・消毒のための石灰散布
…大槌 : 倒壊家屋の家財の運び出し、泥出し
- 宮古 : 仮設風呂の運営・管理と住宅内に入り込んだ泥や家財、ゴミの撤去
- 一関…気仙沼 : (A班) 家屋からの泥出し、家財の移動、物資の仕分け
(B班) 物資の仕分け
- 仙台…多賀城 : 畳あげ、家屋からの泥出し
- 福島…相馬 : 道路をふさいでいる倒壊した造船所の破損物等の片付け

※いずれの作業も各々の地域のボランティアセンターで、優先順位の高い仕事かつ一般ボランティアで対応できる仕事（安全性）であることが確認されています。また、現地に派遣している本部常駐者も作業の安全性には十分注意し、作業を請け負うことにしています。

★岩手（宮古・東和）からの情報 **重要**

○今後、岩手に派遣される方の持ち物について

- ①寝袋等、寝具類は一切不要です（布団など完備のため）
- ②水やお茶など、ペットボトル入りの飲み物も適量準備されていますので、不要です

◆宮城（仙台）、岩手（宮古・東和）からの連絡 **重要**

○作業によっては、ガラスや釘などを踏む可能性もあることから、必ず底の厚い長靴か安全靴をご持参ください。

◆仙台ベースキャンプ定員の変更について

○仙台ベースキャンプの定員を 80 名に変更しています。

…当初、100 名可能との情報もありましたが、スペースの関係、トイレの問題もあり最終的に 80 名としています。つきましては構成組織のみなさんには毎回ほぼ同数で調整していただきたく、合わせてよろしくお願ひします。また、当初復旧する予定であったガスが未だ復旧しておらず、お風呂については中日に近隣の温泉地に行く予定にしています。少しでも環境を改善するべく努力しておりますが、しばらくご不便をおかけしますことをご理解ご容赦願ひします。なお、現在、仙台および周辺で新たなベースキャンプの設置を検討しております。…一部に 100 名は無理との情報も出ているようですが、上限を 80 名としていますので念のため確認させていただきます。

ボランティア派遣担当班 ミニドキュメント ～第 1 陣出発まで～

3 月 11 日（金）◆第 18 回中央執行委員会の最中に東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生

…本部役職員、一部中央執行委員、地方ブロック代表者が連合本部に宿泊

3 月 14 日（月）◆緊急三役会開催 連合本部・緊急対策救援本部設置

3 月 19 日（土）◆政府が震災ボランティア連絡室を設置

◆政府（ボランティア担当：辻元清美首相補佐官ほか）と対策会議

3 月 21 日（祝）◆政府、仙谷由人官房副長官をトップとする生活再建対策本部を設置

◆仙谷官房副長官より古賀会長へ、連合ボランティア早期派遣要請あり

◆辻元首相補佐官より政府と連合の連携強化と早期派遣の要請あり

◆宮城にボランティア先発隊を派遣

3 月 22 日（火）◆緊急三役会、緊急中央執行委員会開催

…中執で政府（辻元補佐官）より要請、民主党（泉健太議員）より激励あり

◆連合・救援ボランティア要領（暫定版）確認

おもな方針として、①救援対象を岩手、宮城、福島とする、②活動は現地の自治体、社

連合本部・災害対策救援本部 ボランティア派遣担当班

電話 03-5295-0555 FAX03-5295-0547（非正規労働センター）

hiseiki@sv.rengo-net.or.jp

協等を中心としたボランティアセンターと連携する、③救援地域に連合ボランティアのベースキャンプを設置する、④連合本部とベースキャンプ間を直行バスで運行する、などを決定

◆岩手にボランティア先発隊を派遣

3月23日(水) ◆相馬市より連合福島に緊急ボランティア派遣要請

3月24日(木) ◆福島にボランティア先発隊を派遣

3月25日(金) ◆連合救援ボランティア相馬先行部隊を派遣(5名×4週間:電力総連が参加)

◆救援ボランティア構成組織担当者会議開催

3月26日(土) ◆構成組織と担当地域調整

3月27日(日) ◆ 同上

3月28日(月) ◆地方連合会ブロック会議開催

3月29日(火) ◆民主党(衆議員ほか)と打ち合わせ

3月31日(水) ◆連合救援ボランティア第1陣出発

関連情報

●「心の無料電話相談」本日開始 産業カウンセラー協会

(社)日本産業カウンセラー協会は、4月1日から「心の無料電話相談」を開始しました。これは、震災で被災した人やその関係者、さらに救援ボランティアの不安・ストレスに対応するため、特別に開設されたものです。相談は、協会所属の産業カウンセラーが対応し、必要に応じて専門機関の紹介も行うとのことです。

■受付時間 午後1時から午後8時まで、相談料・通話料は無料

■電話番号 0120-216633

●ホテルラングウッド 「復興支援プラン」宿泊特別料金を設定

ホテルラングウッド(東京・荒川区)では、4月30日まで、震災の復興支援活動に従事する人を対象にした「復興支援プラン」を設定しています。ボランティア活動のために前泊が必要な場合は、直接ホテルにご予約をお願いします。ご予約はお早めどうぞ。

【シングルルーム】1泊朝食付き5,000円、夕朝食付き6,000円(税・サービス料込)

チェックイン14時、チェックアウト11時。

■お問い合わせ・ご予約はホテルまで(電話03-3803-1234 Fax03-3803-2843)

第一陣ボランティア 各地で奮闘中!

連合救援ボランティア・第一陣は、現地での本格活動開始から4日目。各地に派遣されたボランティアから、活動内容の報告が続々と寄せられています。

難しい環境のもとで慣れない作業が続き、疲れの声も聞こえています。その一方で、住民から感謝されている様子も報告されています。引き続き、安全に十分留意した活動をお願いします！

岩手

●東和

【4/1】大槌町・桜木地区で、浸水家屋からの泥出し、家財道具の片づけ、庭の漂流物の撤去を行う。

【4/2】民家の泥だし、家財道具片付け作業（2軒）

現地から

「遊び半分、見物気分では来ないでほしい。被災者の希望通りに行動する、責任者の指示にきちんと従う、写真撮影は許可を得てからにする、言動には気をつける、などに留意が必要」「現地の方から差し入れ（食べ物、ジュース等）があり、助かる」

宮城

●仙台

【4/1】多賀城市内にて、ボランティアセンターとの連携により、家屋の片づけ作業を実施。

現地から

「多賀城市の南を流れる川で津波が止まった模様です。そのため川の手寄りや山寄りでは被害の状況が全く違い、国道沿いの住宅にはいろいろな漂流物が流れ込んでおり、足下も緩くなっています。津波を受けた地区では漂流物の中に鋭利な物も含まれており、安全靴が必要です。

われわれが受け持った家屋は、お父さんを亡くされたご家庭など男手が必要な世帯ばかり。人では運べない漂流物は自衛隊が撤去したものの、ピアノなど運び出しが必要なものがあり、若手を大量動員して作業しました。大変感謝され、意義のある活動でした」



(写真) 家屋の片づけ作業の様子（多賀城市）

【4/2】前日に引き続き、多賀城市内で、津波により1階部分が浸水した家屋の清掃業務。この日は午後地震度4の地震がありましたが、現地では地震と津波を想定し、常に避難先と避難経路を確認しながら

ら作業しているとのことでした。

●気仙沼特別チーム

- 【4/1】①被災住宅・店舗の泥だし、家財の片付け、②高校での衣類の仕分け作業、の2グループに分かれて作業を実施。
- 【4/2】家屋内の泥だし、家財だし
- 【4/3】家財（タンス、ふとん類等）の搬出、泥出し、流出した家財の移動、車のナンバープレートはずしを実施。



(写真) 物資仕分け作業 (気仙沼西高校)

現地から

「新品と古着が同梱されているものも多くある。古着が中心に送られてきており、このままでは使えないという印象をもった。できるだけ新品を送ってほしいと感じた。地元の高校生が多く手伝いに来ているが、人手が不足している」

「午前11時から作業を開始したにも関わらず、指示通りの作業時間のなかで休憩をとったが、かなり疲れを感じた。作業中でもきちんと休憩をとることはとても大事だと思った」「泥だらけの物の撤去作業なので、長靴、ゴム手袋、マスクは絶対必要」

「作業終了後、家主から一緒に記念写真の撮影と写真を送付するので連絡先を聞かれた。1年後に復興後の状況を見てほしいと要望された」

福 島

●福島

- 【4/1】相馬市内での泥さらい、散乱した発泡スチロールの回収・搬出作業、伊達郡国見町で民家の屋根瓦の撤去や土蔵内の物品撤去、机など備品の搬入を実施。
- 【4/2】相馬市において、海岸沿いの被災した造船所での片づけ作業、流された冷凍車の荷物（冷凍食品）の運びだしを実施。
- 【4/3】相馬市内で、津波によって歩道に積もった土砂を集め、歩道を確保する作業を実施。

現地から

「風が強く砂が舞い上がるため、ゴーグルが必要」「慣れない作業のため筋肉痛になっている」
 「毎日、福島市内の県労働福祉会館から片道90分程度かけて現地に通っている。福島市内では、地震による物的被害は思ったほど感じないが、商店の閉店が早く町全体が暗く感じる」



(写真左) 発泡スチロールの搬出作業 (写真中・右) 歩道に積った土砂の除去

作業に関わる持参物の再確認

各拠点とも泥かき、家財の片付けなどの作業を行う機会が増えています。持参物の徹底をお願いします。

- ◆各自で持参頂くもの：作業着（汚れる可能性大）、雨具上下、安全靴（安全中敷き）、長靴
- ◆現地で用意しているもの：ヘルメット、防塵めがね、防塵マスク、ゴム手袋、各種器具類

「救援ボランティア活動安全基準」を策定

連合本部・災害対策救援本部は4日、ボランティア活動にあたっての安全基準を確認しました。作業の範囲、装備、休息、余震発生時や事故発生時の対応についての基本事項を示したもので、各地域で徹底し、安全の確保をはかっていきます。

連合・救援ボランティア活動安全基準

1. ボランティア活動を行う作業については、県のボランティアセンターから提示される作業、および国や自治体から要請される作業に限定する。連合みずからの判断での活動は一切行わない。
2. 上記の場合であっても、作業の安全確保については連合地域対策本部と現地ボランティア団とが十分に連絡、検討した上で請け負うこととする。
3. ボランティア活動を行う前には、必要器材（ヘルメット、防塵マスク、防塵めがね、安全靴、ゴム手袋など）が装備されているかを十分点検する。
4. ボランティアの体力の維持の観点から、1日あたり、および通期における休息時間を十分に確保する。
5. 被災地で活動する場合は、余震や津波に十分注意を行う。具体的には
 - ① 余震による建物等の倒壊リスクのある場所には一切立ち入らない。
 - ② 余震時における避難場所を確保する。
 - ③ 余震時における警告、誘導方法を徹底する。
 - ④ ラジオ等により、常に情報をタイムリーに得られるようにする。
 - ⑤ 余震があった時は、すべての作業は一旦中止し、安全の確保を図る。
6. 事故が発生した場合は、現地ボランティア団の班長が、連合地域対策本部に直ちに連絡し、適切な判断、行動をとる。地域対策本部は、けが人の状況をふまえ、病院の手配、休息場所の確保、災害対策救援本部（ボランティア班）への連絡など適切な措置を図る。

連合救援ボランティアレポート

第3号
2011年4月5日

| 1

◆◇◆ご準備をお願いします 必須の装備品◆◇◆

救援ボランティアの第1陣が現地にて様々な活動を経験しており、日々現地の情報が入ってきております。実際の活動状況の報告を踏まえ、新たに必要となっている装備品として下記のものをご紹介します。

以下の4点は、サイズ合わせが必要で共同購入には適さない一方、購入後も日常生活や防災用品として活用できるという利点があります。必ずしも安価なものばかりではありませんが、事前に準備をお願いします。

1. 安全靴（ブーツタイプ／ゴム連合推奨、安全品質保証「JF」マークの国産品）

※併せてロングタイプの厚手のソックスもそろえると良い。

購入できる店：全国のホームセンター、作業用品専門店等。代表的な店舗は、島忠ホームズ、ケーヨー、ホームック、コメリ、ダイキ など

2. 作業手袋（産廃作業用ゴム手袋、突き刺しにも対応）

参考メーカー：エステートレーディング製 ニトリル耐油中厚手（起毛なし）

購入できる店：上記「1」の店舗を参考

3. ヘッドランプ（LED球使用／登山用、ヘルメット装着タイプ）

※被災家屋の清掃作業で必須。

参考メーカー：パナソニック、ペツル、ブラックダイヤモンド等

購入できる店：全国の登山、アウトドア用品点、釣り具店にて入手可能。

4. 雨具上下（発汗、透湿機能素材製品）

参考素材：ゴアテックス、東レエントラント 等

購入できる店：上記「2」の店舗を参考

予防しよう 感染症

◆ツツガムシ病

すでに報道にもあるように、被災地で「ツツガムシ病」が多発するおそれについて、国立感染症研究所が注意を呼び掛けています。

ツツガムシ病は、ダニの一種である「ツツガムシ」の幼虫に刺されることで、ツツガムシが保有する病原体に感染し、発症するものです。東北地方では、他の地域と違って春から初夏にかけてふ化することが多く、この時期に感染者も多いとされています。

感染すると、5～14日の潜伏期間を経て、高熱、発疹、リンパ節の腫れなどの症状のほか、頭痛、全身倦怠感、肝機能異常などの症状が出ることもあるそうです。（次ページに続く）

＝予防のため、以下に留意しましょう＝

- 湿地帯や草むらに入る際には、ゴム長靴、ゴム手袋を着用する。
- 衣服は、素肌を露出しないものを着用する。
- ダニなどの虫よけ剤を使用する。
- 入浴、着替え、作業着の天日干しを行う

対策本部では、すでに虫よけ剤を各拠点に手配しています。利用してください。

万一、活動中または帰宅後、わきの下のリンパ腺が腫れたり、高熱・発疹の症状が出たら、すぐに医師の診断を受け、湿地帯や草むらに行ったことを教えてください。抗生物質が有効とのこと。早期発見・早期診断が重要です。

◆破傷風、レジオネラ感染症

すでに「活動のてびき」にも記載していますが、被災地には津波による土砂で汚れた釘やガラスなどが散乱している場合があります。長袖長ズボン、手袋・安全靴を着用するとともに、切り傷を負った場合は直ちに消毒し、絆創膏で保護して下さい。予防接種を行う方法もあります。

また、作業中に飛散するほこりや水を吸い込むことで、レジオネラ菌に感染するおそれがあります。マスク着用で予防しましょう。

※国立感染症研究所・感染症情報センターのウェブサイトで詳しい情報が掲載されています。

<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

＝福島・いわき市周辺対応の拠点が設置されます＝

いわき市につきましては依然として水道が止まっているなど厳しい状況が続いている中、ボランティアセンターの立ち上げも遅れています。また、周辺施設で拠点到に相応しい場所が全く見つからない状況でした。一方、できるだけ早期に支援をお願いしたいという地元地域の要請も日増しに強くなる状況のなか、当面、少々距離はあるものの会津拠点を立ち上げ、ここからいわき市周辺での救援活動を展開することにしました。第1陣（4/8～）として電機連合、運輸労連が活動に参加、第2陣（4/16～）からは2産別に加え、全労金、そして全国の地方連合会からのボランティア団がここに加わるようになります。これで当面予定していた拠点の設置はすべて完了しました。

なお、会津チームの活動は、いわき市、会津若松市を中心に被災家屋の家財道具等の片付け、被災者ニーズの把握、支援物資の仕分け・運搬・配布を行う予定です。

【会津拠点】

○沼尻勤労者保養センター ぼなり

住 所：福島県耶麻郡猪苗代町中の沢温泉

T E L：0242-64-3333 F A X：0242-64-3335

○定員：50名

各地の活動報告～岩手・宮古拠点から

岩手・宮古を拠点に活動を続けてきた第一陣からの報告が入りました。蓄積する疲労と闘いつつも、着々と作業を進め、被災地の皆さんとの交流も深めている様子が伝わってきます。以下、現地からの報告です。

宮古におけるボランティア第1陣は、UIゼンセン同盟からのボランティア班11人が常駐体制をとり、連日、連合岩手の構成組織（JR総連、自動車総連、JAM、国公連合、情報労連など）から6～10名の応援が入り、これを概ね3班にわけ、ボランティア活動やボランティアセンターの運営などにあたっている。

当日の流れは、まず現地の社協に出向き、当日の訪問先と作業の確認、必要機材などの補充を受け、概ね10:00～15:00まで作業を行う。



社協での作業説明をうける連合ボランティア班

●4月2日

この日、ボランティア班は宮古や大槌をマイクロバス1台で移動し、それぞれ現場にむかった。効率的に動くには、より現場に近いところまで入ることができるライトバンなどが多くあった方が便利との意見がだされた。

主な作業は、家屋からの泥出し、家財搬出など。防塵のメガネ、マスクが非常に役立っている。作業は肉体労働が基本なため、ゴム手袋も厚手の耐油手袋が大いに活躍。軍手の上にゴム手袋をはめるとフィット感もアップするとの意見。（いずれも連合のボランティアセンターで用意済みのもの）

また、被災者の方からの要望も非常に多様で、アンテナを外してほしい、エアコンを外してほしいなど、ペンチやカッターなどが必要な場面もあった。ボランティアの面々にとってはもちろん専門外の作業だが、できる限りの対応を行うことでとても感謝されている。

家屋の土砂出しは非常に重労働で、一輪車（ネコ）が土砂の重みでパンクを起こしていた。それほど頑張り様だ。

また、ここでは仮設風呂の管理も行っている。浴室の環境整備や水質・水温管理などが主な任務。

●4月3日

この日は避難所にいる被災者のニーズ調査を社協からの依頼で行う。被災から3週間以上たち、なかなか先も見えない状況の中で、そろそろ仮設住宅に移りたいなど、次のステップへのニーズが出てきている。心のケアも必要性が高まっている。

他の班では、個人宅の泥出しを行った。家屋と裏山の間での泥出しも行う。1日では終わらず、翌日も続ける予定。

仮設風呂の管理はこの日も通常どおり行われた。



避難所でのニーズ調査に入るボランティア班

●4月4日

この日は、泥出しやがれき搬出のほか、地元商店でのカーペットをはがしなどを行った。ポンドで止められたカーペットをはがすのにとても手を焼いた模様。

仮設風呂の管理はこの日も通常どおり行われた。



浸水した民家の床板はがしを行う

●4月5日

地元企業の依頼で、ビールやジュースの缶や瓶の洗浄を行った。日頃の土砂出しなどと比べると比較的負荷はかからないが、不自然な姿勢で長時間洗浄しなければならず、腰などの疲労度はかなり高い様子。

また、キッチンの取り外しなども行った。仮設風呂の管理はこの日も通常どおり行われた。

連日、明るく頑張るボランティアの皆さんだが、作業も5日目を迎え、かなりの疲労蓄積がうかがえる。それでも笑顔を絶やさずに頑張る姿は、被災者の方の励みにもなっている。

作業の合間に、ただ被災者の方の話を聞いているだけでも、他愛もない会話を交わしているだけでも、人の心がつながっていく感じが感じられた。



家屋周辺の泥出し作業。
かなりの力仕事で30分に一度は休まないとヘトヘトに。

—— 第一陣の日程は今日が最終日。岩手・宮城組は今夜、福島組は明朝現地を出発し、帰途につきます。作業を終えた参加者の皆さんからは、クタクタになりながらも、充実感とともに「もう少し残りたい」との声も寄せられています。皆さんの思いは第二陣以降の皆さんが引き継いでいきます。連日の作業で疲労がたまっていると思いますが、最後まで安全に十分気を付けて戻ってきて頂きたいと思います。

ご協力をお願いします！

———仙台拠点への荷物発送について

構成組織から仙台拠点（宮交会館）に直接荷物を直送するケースが見られますが、宮交会館は宮城交通労組の事務所と別棟になっているため、荷物の受け取りで同労組の方々に負担がかかっています。

現地に荷物を届けたい場合は、事前に連合本部・ボランティア班（非正規労働センター）にご相談ください。現地の負担軽減へのご協力をお願いします！

つながる、ささえる、680万



連合救援ボランティアレポート

第5号
2011年4月8日

| 1

【連絡】

連合救援ボランティア・第二陣の対応について

4月7日夜に発生したマグニチュード7.4(最大震度6強)の余震と見られる地震が発生しました。

連合ボランティア第一陣のみなさんは、全員無事帰着しております。一関拠点のボランティアのみなさんについても、ケガ等の報告はありません(本日は待機)。

なお、連合災害対策救援本部は、各拠点の受け入れ態勢について確認・検討した結果、救援ボランティア第二陣の派遣について、下記の通り判断しましたのでご連絡いたします。今後の対応については、決定し次第改めてご連絡いたします。

記

●岩手チーム

出発日を変更 →4/10 10:30 出発 (東京帰着は当初予定通り 4/16 日朝)

●宮城チーム

第二陣については派遣中止。それ以降については対策本部で検討中

●福島チーム

当初予定通り出発 (4/8 12:00 出発済)

【問合せ先】連合本部・災害対策救援本部

電話 03-5295-0555 FAX03-5295-0547

hiseiki@sv.rengo-net.or.jp (ボランティア担当班)

【 続 報 】

連合救援ボランティア・第二陣の対応について

4月7日夜に、マグニチュード7.4(最大震度6強)の余震と見られる地震が発生しました。

連合ボランティア第一陣のみなさんは、全員無事帰着しております。一関拠点のみなさんについても、ケガ等の報告はありません。

なお、連合災害対策救援本部は、各拠点の受け入れ態勢について確認・検討した結果、救援ボランティア第二陣の派遣について、下記の通り判断しました。今後の対応については、決定し次第改めてご連絡いたします。

記

●岩手チーム

出発日を変更 →4/10 10:30 出発 (東京帰着は当初予定通り 4/16 日朝)

●宮城チーム

第二陣については派遣中止。それ以降については対策本部で検討中

気仙沼特別班(一関)については、活動を中止し4/9に東京に帰着

※連合本部到着予定 16:00 頃 (道路事情の回復によって 14:30 頃に早まることもあります)

●福島チーム

当初予定通り出発 (4/8 12:00 出発済、4/16 東京帰着予定)

【問合せ先】連合本部・災害対策救援本部

電話 03-5295-0555 FAX03-5295-0547

hiseiki@sv.rengo-net.or.jp (ボランティア担当班)

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第7号
2011年4月11日

| 1

一関特別班、無事に東京に到着 救援活動へのご奮闘おつかれさまでした！



4月7日深夜の東北地方における大きな余震のため、一関特別班が担当している気仙沼地域において、ボランティア活動できる状況ではなくなったことから（ベースキャンプも停電）、4月9日14時30分に一関特別班が東京に戻ってきました。

気仙沼を中心に甚大な被害を被った地域の救援活動、ほんとうにおつかれさまでした。活動の詳細等は改めて、じっくりレポートします。

（一関特別班の到着。古賀会長ほかが出迎え）

一関特別班の活動は終了とします。

一関特別班は、気仙沼地域の救援のため3月31日～5月1日までの1ヶ月間を活動期間としていましたが、今般の余震により、いったん活動は終了とします。よって、4月16日に予定していた後半チームの派遣も中止します。今後の気仙沼対応については、新たなベースキャンプの設置も含め、他のベースキャンプと同様の対応（実働7日間）を検討することにしています。

一関特別班へのボランティア派遣にご協力頂きました、UIゼンセン同盟、自治労、自動車総連、JAM、日教組、基幹労連、JP労組、情報労連（後半派遣予定）、サービス流通連合、電力総連、JEC連合、損保労連、連合関東ブロックのみなさん、本当に有り難うございました。

なお、仙台ベースキャンプ組の再開の時期につきましては、現在現地とのやりとりを進めているところです。4月16日出発の可否につきましては、4月13日（水）午前中にご連絡します。申し訳ありませんが、もうしばらくお待ち下さい。

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第8号
2011年4月11日

| 1

第一陣 任務終了 本当にお疲れさまでした!

3月31日から4月7日の間、宮古市、花巻市（以上岩手県）、仙台市（宮城）、福島市（福島）を拠点にし、それぞれの被災地でボランティア活動を展開してきた第一陣のみなさんは、4月8日の午前中に全員無事に帰着し、連合本部前で南雲事務局長らに出迎られました。連日の活動とバスの長旅で表情には疲れも見えましたが、その中でも無事活動を終えた安堵感と充実感が伺えました。

翌8日には、一関（岩手県奥州市）を拠点に、宮城県気仙沼市での活動を続けてきた皆さんが、前日の強い余震で滞在先の水道電気ガスが全てストップし、現地での作業継続が困難になったため、派遣期間半ばにして引き上げを余儀なくされました。一関チームのみなさんは9日午後連合本部に到着。古賀会長らが出迎えました。



到着した一関チームを出迎える古賀会長ら
(9日・連合本部前)

※ ※ ※ ※

その一関チームの一員として活動された西野ゆかりさん（基幹労連）から、活動を終えての手記が寄せられました。

泥だらけでめちゃくちゃになった家を何とか早く片付けようとして、作業に夢中になり、実は私たちは最も大事な被災者の気持ちを置き去りにしたのではなかったか…と途中で大いに反省しました。私たちにとってはヘドロまみれの服や写真で、たとえ『棄てていい』と言われても、被災者にとっては思い出の詰まった大切なものです。作業が遅れても、もっと丁寧に扱うべきだった。もっと被災者の気持ちに寄り添った連合(労働組合)ならでのボランティアをしなきゃいけないのではないかと、と数日たった時に班のメンバーで話しあいました。

本当にボランティアを必要としている人を手助けできる仕組みの必要性を感じました。中には自宅は高台にあり被災していないのに所有するアパートの泥だしを頼まれたり、しかも実はそこには人が住んでいなかったことが後で判明したり、自宅は何とか片付いたけど庭の漂流物処分を頼まれたり。避難所暮らしの高齢で足が不自由な一人暮らしの方の家の片付けをした時は、これこそ本当のボランティアニーズではないかと感じました。住民台帳も流され情報が無い中での立ち上げ時期だから仕方ないかもしれませんが…

ボランティアはまだまだ長丁場でこれからが本当のスタートです。私たち連合は本当に現地に頼られているので、切れ目無く、最後までやり続けなければならないと感じました。また私のように現地に行かせて頂く人だけでなく、本部で対策を練る人、職場で仕事をカバーしてくれる人、政策面で被災者を助ける人など、立場は違っても、労働組合全体で復興をめざしていることをあらためて噛み締め、報告完了します。

頑張る、ニッポン！ ご安全に＝

一関チーム 西野ゆかりさん(基幹労連)

第二陣、岩手と福島で活動開始

第二陣のうち、4月8日に東京を出発した福島チームは、福島と、新たに開設した会津の2拠点に分かれて作業を開始。岩手チームは余震の影響で2日遅れの10日に東京を出発。11日から活動に入ります。

福島

●福島拠点（活動地域：相馬市、郡山市）

【4/9】相馬市内の小学校で、物資の移動、パーテーション作りを実施

【4/10】相馬市内の民宿での泥、家具の搬出、片づけ作業を実施。郡山市では、避難所からの避難者の移動・引越しの手伝い、別の避難所での炊き出し、焼鳥のサービス、翌日の炊き出しの仕込み作業（野菜カット）

●会津拠点（活動地域：会津若松市、いわき市）

【4/9】会津若松市内にある支援物資センター（旧高校の体育館）で、物資の運搬、仕分け、整理を行いました。いわき市での作業は、ボランティアセンターから降雨による危険性を考慮し作業の中止申し入れがあったため、被災地視察に切り替えました。

【4/10】会津若松市では、前日に続き支援物資の搬入、仕分け、整理、配布作業を実施。

会津若松市は、大熊町から約3,000人の被災者・避難者を9ヶ所の避難所で受け入れており、町の役場機能も移転してきています。

この日は晴れたこともあり、前日よりも物資を受け取りに来る被災者の方々の数も多く、1,000人以上にのぼりました。物資の整理作業では、所在を明らかにするためレイアウト表を作成し、それに基づいて整理を行いました。体育館であるため、作業は全て手作業。この日だけで1,000個を超える段ボールの運び出しを行ないました。

現地からは、「物資の整理ができれば、混乱なく納品でき、ニーズに応じて素早く物品の取り出しができるため、早急に整理していきたい、倉庫作業は肉体的には結構厳しいが、その分一体感が高まっている」との報告です。

いわき市では、地域の方々と共同で市内にある「道の駅」付近の土砂清掃を行い、午後には津波の被害を受けた家屋での家財分別を実施しました。

現地から

会津若松で活動される方へ

気候が暖かくなってきているため、屋内作業ではTシャツと作業着の動きやすい服装、また体育館での作業もあるため、スニーカーや上履きの持参が望ましいです。



避難所での炊き出し（郡山）

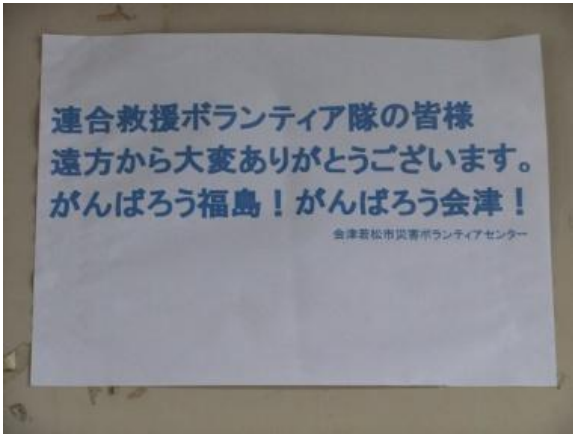


トラック一杯の物資を体育館に運び込む（会津若松）



物資の仕分け作業（会津若松）

※4/11 午後5時過ぎに福島県浜通りを震源とする強い地震がありました。連合ボランティアの皆さん全員の無事が確認されています。



■ボランティアセンターには、連合ボランティアセンターへの感謝と「がんばろう！」のメッセージが掲げられている（福島・会津若松）



■一般のボランティアと共同で作業（福島・会津若松）

現地の写真から



■ちょっと一息。おつかれさまです。（福島・会津若松）



■住宅地には依然として残る倒壊家屋（福島・いわき）



■一日の作業を終えて撮影。傾いた電柱とたわんだ電線が津波の爪痕を示している（福島・相馬）

つながる、ささえる、680万



連合救援ボランティアレポート

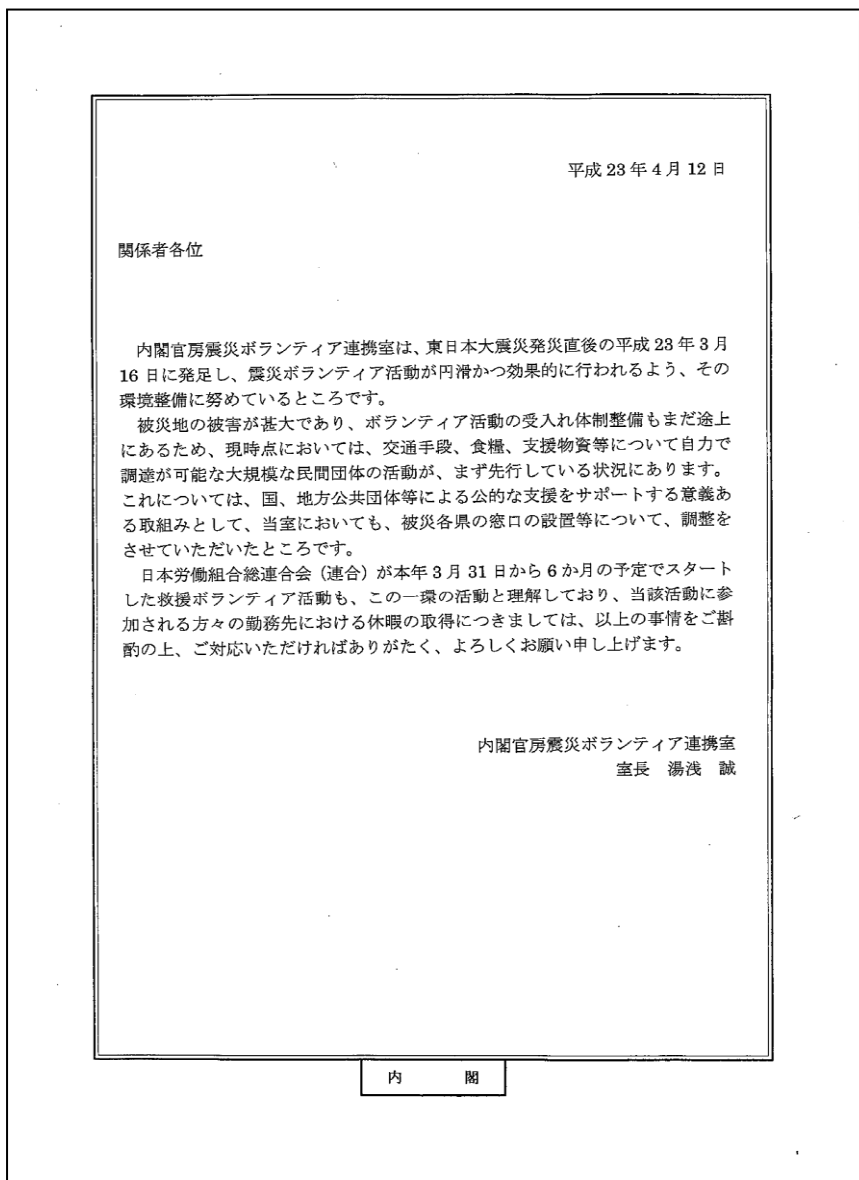
第9号(改)
2011年4月14日

| 1

内閣官房 連合ボランティアの休暇取得で文書を発出

4月11日付で、内閣官房・震災ボランティア連携室長名で文書が出されています。内容は、連合が実施している救援ボランティア活動に参加する皆さんの休暇取得について配慮を求めるものです。

年次有給休暇については労働基準法によって取得権がありますが、ボランティア休暇については取得要件を定めている場合があります。今回の文書は、長期に年休を取得する場合への理解促進や、ボランティア休暇を取得する上での必要書類の一つとしてご活用ください(各構成組織・地方連合会には別途発信文書でご連絡します)。



活動レポート

福島

●福島拠点（活動地域：相馬市、郡山市）

【4/11】相馬市の市民会館での物資仕分け・運搬、住宅から家具搬出を実施。

●会津拠点（活動地域：会津若松市、いわき市）

【4/11】会津若松では、前日に続いて支援物資センターでの活動。物資の仕分け、整理、配布、受付業務などを行う。いわきでは、津波を受けた家屋で、家財、農機具、倉庫、物置の片づけを実施。

※作業終了後、拠点に戻る途中で強い余震が発生したが、ケガ等の報告は無し。

【4/12】午前中は、前日発生した余震により作業を見合わせたが、午後から活動を再開。

現地から

「余震が発生していることもあり、作業に入る前の安全確認、避難経路の確認を徹底しています。」

「民家での作業は、誰の指示を受けてやるべきか迷うことがあります。例えば、家の状況把握ができていない祖父母の話と、普段は家にいない息子の話、どちらを優先してよいのか…」

現地の写真から



■避難所の受付風景（会津若松）



■避難所には子どものプレイフィールドも設置（会津若松）



■津波で物が散乱し、床もどろどろの物置が、片づけ作業できれいに（いわき）